

1 学校として目指す授業

○丁寧に粘り強く取り組む力が身に付く授業 ○一つ一つの知識がつながり、「できた!」「わかった!」と思える授業 ○自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育む授業

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析 (小学校6年生)

学力・学習状況調査の分析
・国語の平均正答率は、全国・東京都と比較して高い傾向にある。その中で見ると、「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」や既習の漢字を文の中で正しく使うことに課題が見られた。 ・算数の平均正答率は、全国・東京都と比較すると高い傾向にある。しかし、相対的に見て「C変化と関係」や「Dデータの活用」の領域の正答率が低い。特に結果や必要な数値を読み取り、その理由を言葉や数を用いて説明することに課題がある。

生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」や「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」の問いに対しては否定的な意見が多く、積極的に自分の考えを表現したり、他者の考えを取り入れたりしようとする意欲が十分でないことが考えられる。 ・本校の児童は、ICT機器の活用が勉強の役に立つことは理解しているが、ICT機器の活用状況が低い傾向にあり、全国と比較しても日常からの活用が十分ではないことが分かる。

(2) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
【東京ベーシックドリル(算数)の結果から】 ・どの学年も、表とグラフに関する問題の正答率が低い。正確に数値を読み取り、グラフに表現することに課題がある。 ・3年生で学習する時間や時刻の正答率が低く、日常生活から身に付けさせる必要がある。 ・6年生では、がい数や割合の正答率が低いことから、下の学年から系統的に基礎・基本を定着させるとともに、テープ図や表などに表して理解させていく必要がある。

3 児童の学力・学習状況等の課題

- ・基礎的・基本的な学力の定着が十分でない児童がいる。
- ・学習課題に対して、あきらめず粘り強く取り組むことに課題がある。
- ・積極的に自分の考えを表現したり、他者の考えを取り入れたりしようとする意欲が十分でない。
- ・読み取った情報を自分の言葉で表現する力に課題がある。
- ・ICT機器の活用が日常から十分ではない。

- 【授業改善推進プランの活用法】**
- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
 - ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
 - ③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
 - ④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
 - ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 学校指導課へ提出する。
 - ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

4 学校全体の授業改善の視点

- A 基礎的・基本的な内容の定着の徹底。
 B 粘り強く取り組み、全ての児童ができた、分かったと実感する授業の実践。
 C 1人1台ICT端末を活用するなど、自分の考えをもち、表現する場面を取り入れた多様な授業形態。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	A 文や文章の中での片仮名や漢字の適切な使い方を繰り返し指導し、定着を図る。 C 文章の感想や自分の考えを伝えあったりする、対話的活動を充実させる。				A 定着が不十分な場合には、放課後学習など個別に支援ができるようにしていく。 C ICT機器を活用して、児童が考えるきっかけを作ったり、児童の考えを共有して学習内容の理解を深めたりできるようにする。				B 内容や時間の見通しをもち、児童の生活や体験に基づいた具体的な活動を行う。 C ICT機器を活用するなど、様々な形で自分の考えをまとめたり発表したりできるような場を設定する。		A 授業の流れと学習活動を明確にし、見通しをもたせる。 B 音楽で思いを伝えられるよう、技術や感性を高める。		A 正しい道具の使い方を定着させる。 C 様々な材料による表現方法を知り、すべての児童が楽しく発想や構想ができるよう工夫する。				A 運動をする上で守るべききまりを繰り返し指導し、定着させる。 C 児童がお互いの活動を見合い、お互いの良いところや改善点等を伝え合う活動を取り入れる。					B 児童が主体的に考えることができるように、課題意識のある教材提示や発問の精選を行う。 C 話し合い活動では、ICT機能のポジション機能や役割演技などの表現活動の工夫を取り入れ、自分の考えを深めることができるようにする。
中学年	A 辞書引き学習や読書活動を進め、語彙を増やし表現力を高める。 C 様々な言語活動を通して要点を捉え、自分の考えをもって伝え合う力を身に付ける。		A 地図記号や方位、重要な用語等の基礎的な知識を繰り返し指導し、定着を図る。 B 資料から読み取ったことや考えたことを個人で書く時間、全体で話し合っ共有する時間をそれぞれ十分に確保する。		A 東京ベーシックドリルを活用し前学年の復習を行い基礎基本の定着を図る。 B 対話的活動を通して解決の方法を比較検討しよりよい解決方法を身に付けていくよう指導する。 C ICT機器や半具体物の操作活動を通して自分なりの考えを表現できるように工夫する。		A 「問題→予想→実験→結果→考察→まとめ」の思考の流れを定着させることで、基礎的・基本的な学力の定着を図る。 B 学習した内容を日常生活に照らし合わせて考えさせる。				A 生涯的に音楽とかかわることができるようなきっかけづくりとして様々なジャンルの音楽にふれる機会を作る。 B 音楽で思いを伝えられるよう、技術や感性を高める。		A 正しい道具の使い方を定着させる。 C 中間鑑賞をしたり、表現方法や工夫を発表したりする場面を設定し、互いに認め合うとともに達成感を感じられるようにする。				A 安全に運動をするためのルールを知る。それぞれの単元に必要となる基本的な動作を身に付ける。 C 友達同士で技に取り組む様子をICT機器を用いて撮影し、自分のよさや課題を見つめて技に磨きをかける。				B 話し合い活動の時間を設け、自分の考えと他者の考えとの共通点や相違点に気付くことができるようにする。 C ICTを活用して教材提示を工夫したり、児童の考えを可視化したりすることで、主体的な学習を促す。	
高学年	B 自分の考えを筋道を立てて整理し、クラスの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。 C Teamsなどを活用して、より多くの友達と意見交流する機会を設け、自分の思いや考えを伝え合おうとする態度を育てる。		B 社会的事実と比較したり関連付けて考えたりしたことを、図や文章でまとめる時間を十分に確保する。 C グラフや写真、地図に触れる機会を増やしたり、ICT機器を活用したりするなど、資料の読み方を丁寧に指導する。		A 東京ベーシックドリルを活用し反復学習を行い基礎基本の定着をはかる。 B 対話的活動を通して解決の方法を比較検討しよりよい解決方法を身に付けていくよう指導する。 C ICT機器や図の活用を通して、自力解決場面や集団解決場面で充実した学習活動ができるようにする。		B 予想や考察をしやすいうえ児童が自分の考えを表現できるようにする。 C 観察物や実験の様子をカメラ機能を使って記録することで、より事実に基づいた考察ができるようにする。				A 生涯的に音楽とかかわることができるようなきっかけづくりとして様々なジャンルの音楽にふれる機会を作る。 B 音楽で思いを伝えられるよう、技術や感性を高める。		A 材料や用具の使い方を確認と応用をする。 C 経験したことを基に、自分に適した表現方法や材料を選べるように、学習活動に幅をもたせ、自分なりの表現ができるようにする。		A 日常生活との関連を常に意識し、生活に生かせる知識・技能を身に付けさせる。 C 動画や写真、ICTを活用して調理方法や裁縫の仕方を視覚的に理解しやすくすることで、児童の意欲を高める。		B 運動が「できる」だけではなく、「わかってできる」授業を実践する。 C 児童が手本の姿を参考にしたり、自分が運動する姿を確認したりするなど、効果的にICT機器を活用する。				A 単語や表現を、チャンツやゲームを通して慣れ親しんだり、ALTのネイティブな発音を参考に繰り返し練習したりする。 C 発表やコミュニケーションの場面では、児童がプレゼンテーションソフトなどで資料を作成し、自信をもって発表できるようにする。	B 導入や展開の前段で児童にとって身近な課題を提示し、課題意識をもたせ、主体的に考えさせるようにする。 C 一人ひとりが自分の考え方や感じ方を、のびのびと表現することができる雰囲気、授業の中でつくる。